

登録コード	E8306401	開講年度	2026				
授業科目	数学教育法特別演習 B					担当教員	宮崎 樹夫
英文授業名	Seminar on Mathematics Education B					副担当	
単位数	2	講義期間	通年	曜日・時限	月曜・6時限	対象学生	
講義室	教育N302講義室	授業形態	演習	遠隔授業科目		備考	
信大コンピテンシー 該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					【授業の達成目標】	
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ						
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観						
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能						
(2)授業で学べる「テーマ」	地域運営、環境共生、多文化協働、キャリア						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	ゼミ形式で、各自の発表を行い、質疑応答・討議する。 広く数学教育に関する研究や調査結果を収集するとともに、各自のテーマに関連した資料を収集する。これら資料にみられる結果を、文献解釈、研究方法や調査方法などの根拠にさかのぼって吟味したり、それら研究や調査を支える教材分析等を追体験したりすることを、具体的な内容に即して適宜取り入れる。また、調べた結果に基づいて考察したことを他者に的確に伝えるための執筆方法についても、具体的な内容に即して適宜取り入れる。さらに、各自の研究テーマとは別に、共通の課題について討議する機会も設ける。						
(5)授業計画	第1回：数学教育に関する研究の意義 第2回：数学教育に関する研究の進め方 第3回：数学教育に関する研究の具体 第4回：先行研究（数学教育の目的）の収集と分析 第5回：先行研究（教材）の収集と分析 第6回：先行研究（学習）の収集と分析 第7回：先行研究（カリキュラム）の収集と分析 第8回：先行研究（指導法）の収集と分析 第9回：先行研究（評価）の収集と分析 第10回：先行研究（数学教育史）の収集と分析 第11回：研究テーマの設定 第12回：先行研究（各自のテーマ）の収集と吟味 第13回：研究方法（理論研究） 第14回：研究方法（量的研究） 第15回：研究方法（質的研究） 第16回：先行研究（各自の研究テーマ）の成果と課題 第17回：研究課題の設定 第18回：概念枠組みの設定 第19回：研究課題解決のための構想 第20回：研究課題解決のための考察と分析の方法 第21回：考察対象の明確化 第22回：考察方法の確定 第23回：考察結果の吟味 第24回：結論の精緻化 第25回：結論の価値付け（オリジナリティ、有用性、限界など） 第26回：レポートの内容と構成（研究課題，概念枠組み） 第27回：レポートの内容と構成（考察，結論） 第28回：レポートの内容と構成（全体の整合性），授業アンケート						
(6)成績評価の方法	各回の発表の内容（60％），及び質疑応答・議論の内容（40％）によって評価する。 評価割合は，若干の調整を行うことがある。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90％以上 秀，89-80％ 優，79-70％ 良，69-60％ 可，59％以下 不可。						
(7)成績評価の基準	研究課題，概念枠組み，考察，結論・意義・今後の課題のすべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表及び討議を行えば「その水準にある」。その上でいずれか一つについて発展的な発表及び討議を行えば「やや上にある」，二つについて発展的な発表及び討議を行えば「かなり上にある」，三つ以上について発展的な発表及び討議を行えば「卓越している」。						
(8)事前事後学習の内容	受講に際し事前に前回の講義で課した内容について予習が必要であるとともに，講義内容を習熟するために講義で課した課題に取り組む必要がある。 各1回の講義あたり事前・事後の学習時間は少なくとも合計4時間は確保すること。事前と事後の学習時間の配分は個々の学生の判断に任せる。						
(9)履修上の注意	各自，研究テーマに関連した文献等を図書館などで検索・収集すること。 国際的な動向を踏まえるために，少なくとも1編は英語論文を読むことが望ましい。 他の受講者が発表する際には，積極的に意見を述べて討論すること。						

(10)質問，相談への対応及び連絡先	オフィスアワー：研究室，随時 連絡先： mmiyaza@shinshu-u.ac.jp
【教科書】	適宜紹介する。
【参考文献】	適宜紹介する。